

その後進学した佐賀高校は当時1学年千人という日本一のマンモス校でした。1 学年上には、のちにお茶の水女子大学在学中に「逆光線」で華々しく文壇にデビューし、“女慎太郎”と騒がれた岩橋邦枝さんがいました。

ボート部で活躍 ～そのご縁で東洋紡へ入社

大学では、入学と同時にボート部に入部し大学の寮に入りました。入部を勧めてくれたのはボート部所属の佐賀高校の先輩Mさんでした。ボートの仲間達とは、寮で一緒に過ごすことに加えて、クルーを組むと夏休みの40日間ほどを大部屋で一緒に合宿生活をします。文字通り寝食を共にした友人達で、兄弟同様というか、それ以上の親密さが現在も変わることなく続いています。なお、前佐賀県知事の古川さんはボート部の後輩にあたります。

東洋紡への入社もボートがきっかけでした。大学4年の7月に、寄付集めで東洋紡の先輩Kさんを訪ねたところ、強く入社を勧められました。即座に断ると寄付を貰えないので、曖昧な返事をして東京へ帰りましたが、8月末に、突如大学の学生部に呼び出さ



懐かしく「ふるさと」を語られる津村準二様



れ、結局東洋紡へ入れてもらいました。

以上が学校生活の話ですが、“佐賀を想えば思いつくもの”について触れてみたいと思います。

楠(県木)、楠(県花)、カチガラス(県鳥)、天山、脊振山、早津江川、有明海・潮干狩り、唐津海水浴場、お濠・楠、佐嘉神社、県立図書館、玉屋、ワラスボ、ウミタケ、クチゾコ、タイラギ、ムツゴロウ、エツ、えびすさん。



部屋に飾ってある「えびすさん」の写真

東洋紡を1882年に創立したのは、明治の大実業家渋沢栄一ですが、この大実業家を世に出したのは佐賀藩士です。明治維新後、大蔵次官大隈重信の出仕要請を断るために上京した渋沢は、逆に話上手の大隈に押し切られ、大蔵省へ出仕することになります。

その後渋沢は、野に下って実業界に進み、東洋紡を創立しました。東洋紡は、この渋沢の残した「順理則裕」を経営の基本理念とし、時代の変化に合わせて



渋沢栄一氏



事業を変えることで、130年以上もの長きにわたって存続してきているのです。

(注)津村様に要旨をまとめて頂きました。

TORISHIMA

Let's **ポンプdeエコ**

ポンプもエコで選ばれる時代です。
徹底的に省エネを追求したトリシマのポンプは、各種プラントの消費電力とCO₂の削減に大きく貢献しています。

株式会社 西島製作所

本社・工場 / 大阪府高槻市宮田町一丁目1番8号 TEL 072-695-0551
佐賀営業所 / 佐賀市唐人2-5-8 佐賀中央通りビル TEL 0952-24-1266

トリシマのマスコット「トリポン」

